

# 決議案提出書

秋田市新屋への地上イージス配備反対の決議（案）

決議案を、横手市議会会議規則第14条第1項の規定により別紙のとおり提出します。

令和元年9月20日

提出者

賛成者

本間利博	高橋和樹	大日向香輝	青山 豊	加藤勝義
奥山豊和	寿松木孝	鈴木勝雄	立身万千子	菅原正志
佐藤誠洋	高橋聖悟	木村清貴	佐々木喜一	小野正伸
佐藤清春	佐藤忠久	菅原恵悦		

横手市議会議長 播磨 博一 様

理 由

防衛省は、秋田市新屋に迎撃ミサイル基地を建設しようとしており、この施設が発する強力な電磁波による人体への影響や、敵国からの攻撃、またはテロ攻撃も予想される。住宅密集地のすぐそばに軍事基地を建設することに反対の意思を表明するものである。

## 議会案第5号

### 秋田市新屋への地上イージス配備反対の決議

秋田市新屋に地上イージスを配備することについて、秋田県民の不安、不満、憤りは、なによりも住宅密集地に近いことである。新屋勝平地区は現在、5,400世帯、1万3,000人が住んでいる。もし、この土地に地上イージス（軍事施設＝ミサイル基地）ができれば、日常的に発する強力な電磁波によって人体はもちろん、飛行機、船舶、ドクターヘリの運行に支障をきたす恐れがあり、地域住民は平穏な暮らしができなくなってしまう。

また、防衛省の報告によると、敵国からの攻撃だけでなく、テロの攻撃も予想されているため、この地域は250人の自衛隊による警備や日常的監視が行われ、物騒な地域に一変してしまうと予想される。機関銃などで武装した部隊が常時、監視体制をとっている状況は想像するだけでも恐怖を感じる。

7月の参議院議員選挙秋田選挙区では、地上イージスの新屋配備が選挙戦の大きな争点のひとつとなった。魁新聞の世論調査でも地上イージスについて、「どちらかといえば反対」と「反対」あわせて反対60%、「どちらかといえば賛成」と「賛成」あわせて賛成は28%となっている。まさに「秋田に地上イージスはいらない」という県民世論を大きく反映していると考えられる。

想定されている相手国のミサイルは核ミサイルであり、もし惨劇がおこれば秋田県全体、日本全体にかかわる問題ともなるため、当議会として、地上イージスを新屋に配備すべきではないと判断し、配備反対の決議をするものである。

以上決議する。

令和元年9月20日

横手市議会